

日本中小企業学会

2011年1月

会 報

No. 58

会長就任にあたり 日本中小企業学会 高田亮爾新会長挨拶



高田亮爾（流通科学大学）新会長

このたび、日本中小企業学会第 11 期の運営責任を担うこととなりました。これまで本学会の発展にご尽力されてこられた歴代の会長はじめ、多くの先輩のご努力を思います時に、責任の重さを痛感しております。役員各位はじめ会員各位のご助力をいただき、微力ながら学会の発展に全力を尽くしたいと存じます。

1980 年に設立された本学会は、2010 年に 30 周年

を迎え、ますますその社会的使命が重要となっております。こうした中で、前会長の基本方針を継承しつつ、今後さらなる学会の発展に向けて、次のような課題があると考えております。

第 1 に、学会の財政基盤の改善・再構築を図ることが喫緊の課題と思われま。会員各位のご理解、ご協力を得られますよう、努めたく存じております。

第 2 に、学会活動の基本である全国大会、およびその前提となる地区別部会の一層の充実・発展を図っていききたいと考えます。

第 3 に、そうした学会活動の重要な成果である『学会論集』の一層の充実・発展を志向したいと思います。

第 4 に、国際交流の促進、次世代を担う若手の育成、さらに社会・地域との連携等に、今後とも注力していきたいと考えます。

第 5 に、必要に応じて、学会の会則、規定、内規などの整備を進めねばならないと考えております。

全体として、学会設立の目的・原点である「中小企業研究に関心をもつ多様な専門分野の研究者を結集し、中小企業の総合的・学際的研究を進展させ、その成果の普及を図るべく」、努力する所存でございます。

会員各位のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本中小企業学会 第 30 回全国大会記

日本中小企業学会第 30 回全国大会は東洋大学を会場として、2010 年 9 月 25 日、26 日の両日に開催された。今年の統一論題は「世代交代期の中小企業経営」である。周知のように、わが国の中小企業は、デフレ・スパイラルの懸念、景気の先行き不透明感など中小企業経営の見通しが不

透明さを増している。また、少子化や高齢化の進展や、若者の理系離れや技術に対する関心の低下など、社会のあり方も大きな転機をむかえつつあり、中小企業経営を次世代に引き継ぐことは社会的な課題ともなっている。このような状況にあつて、今回の統一論題は「世代交代期の中小企業経

営」とし、転換期にあるわが国の中小企業の事業承継の課題を幅広く検討することがテーマとなった。

第1日午前中、自由論題報告(その1)では、4つの分科会が設定され、①産業集積と中小企業、②中小企業の取引関係、③東アジアの中小企業、④中小企業金融をテーマに研究成果が発表された。

午後からは、会員総会に続いて、渡辺幸男前会長による「日本中小企業学会の30年と(私の)中小企業研究—実態から実態へ—」と題する日本中小企業学会設立30周年記念報告が行われ、この30年間の当学会の研究の歩みが話された。その後、今大会では武蔵大学コミュニティビジネス研究会の協力を得て開催された信金中金協賛・国際セッションにおいて、協賛元の信金中央金庫地域・中小企業研究所所長 平尾光司氏の挨拶の後、「世代交代期の中小企業経営—次世代経営者の育成と経営の委譲—」を共通演題として、米国バブソン大学名誉教授ウィリアム・バイグレイブ氏による“Entrepreneurship Education”というタイトルの発表が行われた。講演では、優れた起業家を育成するためには、学生が事業に関する様々な体験を通して学ぶ「能動的体験アプローチ(Active Experiential)」が望ましく、その具体的実践としてバブソン大学の方法(The Babson Method)が紹介され、日米の起業家教育のあり方についてフロアからの質疑と応答という形式で討議が行われた。

第1日の夕刻の懇親会では、当日の研究報告や論題について会員が相互に活発な議論や意見交

換を交わしていた。

第2日午前中、自由論題報告(その2)は、4つの分科会が設定され、⑤中小企業の競争力と市場設定、⑥起業の現状、⑦中小企業の事業承継、⑧人的資源と中小企業、をテーマとする研究成果が報告された。

続いて、統一論題は、黒瀬直宏氏(嘉悦大学)と安田武彦氏(東洋大学)の二人を座長として3つの報告と討論が行われた。第1報告では、久保田典男氏(日本政策金融公庫)が「世代交代期の中小企業経営—次世代経営者の育成」と題して報告し、久保田章市氏(法政大学)と討論した。午後の第2報告では、池田大氏(株式会社文典堂代表取締役・東京中小企業家同友会副代表理事)が「世代交代期の中小企業経営—経営委譲後の現実と経営革新」と題して報告し、三井逸友氏(横浜国立大学)と討論した。引き続き第3報告では、畑澤正一氏(大森学園高等学校校長)が「世代交代期の中小企業経営—従業員の技能承継と人材育成」と題して報告し、弘中史子氏(滋賀大学)と討論した。

第30回全国大会の企画・運営に尽力された開催校である東洋大学の安田武彦大会準備委員長、さらには大林弘道副会長(大会プログラム委員長)ほか東部部会など関係者の皆様のご尽力、ご努力に心からお礼を申し上げます。また来年度の第31回全国大会は兵庫県立大学での開催となります。積極的な研究報告やセッションを基に、更なる活発な議論を期待しています。

笹川 洋平(福岡大学)

地区部会別活動報告

<東部部会>

日時: 2009年12月19日(土) 13時~15時10分

場所: 日本大学経済学部7号館13階会議室3

出席者数: 30名

報告1: 新井大輔氏(中央大学大学院生)

「信用金庫における渉外活動の機能」

報告2: 永島昂氏(中央大学大学院生)

「高度成長期初期における

川口鋳物工業の発展と地域資源」

日時: 2010年5月29日(土) 13時~16時

場所: 日本大学経済学部3号館4階会議室3

出席者数: 27名

報告1: 山本聡氏(機械振興協会経済研究所)

「人材」から見た国内素材産業の

営業機能と取引関係の変化」

報告2: 駒形哲哉氏(慶應義塾大学)

「中国における電動車産業の発展

—その特徴と可能性」

日時: 2010年6月26日(土) 13時~16時30分

場所: 日本大学経済学部7号館13階会議室3

出席者数: 30名

報告1: 兼村智也氏(松本大学)

「中国における日系ユーザーと現地企業との企業間関係—金型をめぐる長期継続取引関係」

報告2: 小林世治氏(日本大学)・高橋慎二氏(日本大学)
「大田区・中小機械金属工業の構造変化
—1998年・2008年調査結果を通して—」

報告3: 山本篤氏(日本大学)
「国内タオル産業の変容と課題」

<中部部会>

日時: 2010年6月5日(土) 13時30分~16時
場所: 中京大学名古屋キャンパス アネックスビル2階会議室

出席者数: 13名

報告1: 北原和成氏(中小企業診断士)
「中小企業と経営理念」

報告2: 寺島雅隆氏(愛知学泉短期大学)
「起業家教育は何を育成するのか
—起業家及び起業家精神をめぐって—」

日時: 2010年7月10日(土)
13時30分~16時30分
場所: 名古屋大学大学院経済学研究科
2階第1会議室

出席者数: 16名

報告1: 藤田泰正氏(NPO 東海マネジメント研究会)
「産業集積と技術形成—浜松地域における
戦前期の展開を中心として—」

報告2: 弘中史子氏(滋賀大学)
「中小企業の市場設定と
ニッチ市場におけるシェア獲得」

<西部部会>

日時: 2010年1月9日(土) 13時~17時
場所: 流通科学大学 講義棟VI・6301教室
出席者: 37名

報告1: 林幸治氏(大阪商業大学)
「中小製造業の資金調達と金融機関との関係
—東大阪市を事例として—」

報告2: 斎藤慎介氏(兵庫県信用保証協会)
「保証協会の信用保証制度の概要と現状」

報告3: 稲田顕氏(大阪府商工団体連合会)
「中小業者にとっての消費税問題」

日時: 2010年5月8日(土) 13時~17時

場所: 龍谷大学深草キャンパス

紫英館2階 東第二会議室

出席者: 38名

報告1: 関智宏氏(阪南大学)
「サプライヤー関係下での中小企業と関係
レントー下請理論の新展開を目指して—」

報告2: 鶴坂貴恵氏(プール学院大学)
「経営者の感情と行動
—地域商業における商店主を例として—」

報告3: 松下隆氏(大阪府商工労働部)
「受託ソフトウェア産業の取引構造と存立基盤の変
化—中小エンタプライズ系ソフトウェア業から組込み系
への多角化を視点として—」

日時: 2010年7月3日(土) 13時~16時

場所: 大阪市立大学 文化交流センター

出席者: 28名

報告1: 柘野直樹氏(柘グリーンキュービック)
「中小企業における事業承継に関する研究
—事業承継予定者の視点に基づく
岡山県企業に対する調査を中心にして—」

報告2: 藤川昇悟氏(阪南大学)
「00年代における韓国の自動車メーカーと
部品メーカーの取引関係の変化」

<九州部会>

日時: 2010年7月24日(土) 13時~17時
場所: 福岡大学 文系センター15階第7会議室

報告1: 中禮宗一氏(福岡大学大学院生)
「中小企業としてのアグリベンチャーに
関する—考察」

報告2: 出家健治氏(熊本学園大学)
「地域流通と所得循環メカニズム
—福岡—極集中の強さについて—」

報告3: 山本久義氏(九州産業大学)
「九州における中小企業が展開する
マーケティング戦略の実態と課題」

日本中小企業学会 2010 年度会計決算報告 (2009 年 11 月 1 日～2010 年 10 月 31 日)

<<収入の部>>	2010年度予算 (a)	2010年度決算	差額
I 前期繰越金	6,900,093	7,734,440	834,347
II 会費収入計	4,060,000	3,858,000	△ 202,000
(1)個人会員会費収入	3,140,000	3,278,000	138,000
	(470口)	(494口(b))	
(2)賛助会員会費収入	920,000	580,000	△ 340,000
	(46口)	(29口(c))	
III その他収入	500,000	300,000	△ 200,000
(1)協賛金収入	500,000	300,000	△ 200,000
		(d)	
(2)雑収入	0	0	0
合計	11,460,093	11,892,440	432,347
(期間収入総額)	4,560,000	4,158,000	△ 402,000
<<支出の部>>	2010年度予算	2010年度決算	差額
I 全国大会開催経費	800,000	800,000	0
II 地区部会経費	300,000	300,000	0
(1)東部部会費	115,000	115,000	0
(2)中部部会費	55,000	55,000	0
(3)西部部会費	75,000	75,000	0
(4)九州部会費	55,000	55,000	0
III 会報発行経費	133,000	128,750	4,250
(1)会報印刷費	42,000	42,000	0
(2)郵送費	91,000	86,750	4,250
IV 年報編集経費	164,300	143,625	20,675
(1)レフェリー謝金	85,000	73,000	12,000
(2)郵送費	59,300	52,230	7,070
(3)役務費/事務費	20,000	18,395	1,605
V プログラム委員会経費	50,000	0	50,000
VI 国際交流経費 (学会報告補助)	400,000	240,000	160,000
		(e)	
VII 若手研究奨励経費	120,000	26,000	94,000
VIII 本部経費	3,205,000	2,951,887	253,113
(1)郵送費	80,000	15,595	64,405
(2)旅費・会合費	100,000	0	100,000
(3)事務担当謝金	700,000	611,000	89,000
(4)年報発行費・事務費	1,500,000	1,495,725	4,275
(5)国際交流費	550,000	550,000	0
(6)事務用品費	80,000	92,415	△ 12,415
(7)役員選出経費	135,000	133,165	1,835
(8)名簿発行費	0	0	0
(9)雑費	60,000	53,987	6,013
IX 予備費	50,000	0	50,000
X 次期繰越金	6,237,793	7,302,178	△ 1,064,385
合計	11,460,093	11,892,440	△ 432,347
(期間支出総額)	5,222,300	4,590,262	632,038
期間収支	△ 662,300	△ 432,262	230,038

(a)2010年度予算は2009年度会員総会資料で開示したものを使用。

(b)内、60口は学生・シニア会員分。また6000円入金(1000円不足)、8000円入金(1000円超過)が各1名いた。なお、いずれも口数としてカウントした。

(c)中小企業基盤整備機構(10口)のほか、賛助会員の退会により22万円の減額。

(d)借入金金からの協賛金収入は20万円の減額。

(e)国際学会における報告助成金24万円のうち、12万円は前年度該当者への振り込み手続きが年度をまたいだために計上されている。今年度分については会員1名に対して12万円の助成を行った。

2010 年度決算概況

2010 年度（2009 年 11 月 1 日～2010 年 10 月 31 日）の収支決算は 432,262 円の赤字、予算に対しては 230,038 円の収支改善であったことを報告いたします。具体的内容は以下の通りである。

《収入の部》

2010 年度の収入総額は 4,158,000 円であり、うち会費収入は 3,858,000 円であった。会費収入の内訳は、個人会員 3,278,000 円、賛助会員 580,000（29 口）である。個人会員会費収入の内訳は下の表に示す。なお、個人会員のうち、一般会員の会費は 7,000 円、院生とシニアの会員は 4,000 円となっている。

個人会費収入は未納者に対する書面での納付呼びかけや全国大会での会費納入受付設置などにより、予算を 24 口分上回った。しかし院生・シニア会員の増加に伴う単価減少に加え、賛助会員の退会（11 口）により会費収入は予算を 202,000 円下回った。さらに協賛金収入は 20 万円減少した。

結果、本年度の収入は予算額を 402,000 円下回った。

《支出の部》

2010 年度の支出総額は、4,590,262 円であり、予算を 632,038 円下回った。

全国大会経費及び地区部会経費については原則渡し切りで、予算通りに執行した。

会報発行経費のうち郵送費は、予算を若干下回った。年報編集経費は、収録論文数の増加により困難が生じたが、効率的な運用により予算を下回った。

国際学会における報告助成のための国際交流経費は、前年度分の 12 万円と、今年度分の 12 万円を該当者に支給した。若手研究奨励経費は第一回「受賞該当なし」のため予算を下回った。

本部経費については効率的な運用により支出が予算を 253,113 円下回った。主な要因は、事務 3 年目のため事務担当者の効率が向上することで謝金額が圧縮されたことと、全国大会役員会の弁当代を自費扱いとすることで、旅費・会合費を使用しなかったためである。

《繰越金・資産内訳》

2011 年度への繰越金は 7,302,178 円となり、資産（現金・預金）の内訳は、下記の通りである。

現金	普通預金 口座	郵便一般振替 口座	合計
6,507 円	522,780 円	6,772,891 円	7,302,178 円

	過年度分	今年度分	次年度分	合計
口数	62 口 2007 年度分：4 口 2008 年度分：14 口 2009 年度分：44 口 (内シニア 4 口)	425 口 (うち院生及びシニア 55 口)	7 口 (うちシニア 1 口)	494 口
金額	422,000 円	2,810,000 円	46,000 円	3,278,000 円

.....

本部事務局からのお知らせとお願い

《事務局移転しました》

日本中小企業学会役員改選に伴い、本部事務局が、駒澤大学経済学部（長山宗広理事）から、兵庫県立大学経営学部（佐竹隆幸常任理事）に変更になりました。新役員は次のページの通りです。

また、会員の各位宛てに名簿作成の住所確認用のハガキ、会費の納入に関する書類を同封しておりますので、ご記入や納付にご協力をよろしくお願いいたします。

なお、新事務局の連絡先につきましては、末尾をご確認ください。次回の日本中小企業学会第 31 回全国大会は、2011 年 10 月 1 日(土)・2 日(日)に兵庫県立大学で開催いたします。

日本中小企業学会・第11期 各役員(2010年11月～2013年10月)

会長

高田亮爾

副会長

(東部) 黒瀬直宏 (中部) 寺岡 寛
(西部) 太田進一 (九州) 笹川洋平

常任理事

(東部) 三井逸友(国際交流担当)、渡辺幸男、大林弘道
(中部) 山田基成、林 伸彦
(西部) 佐竹隆幸(本部事務局、プロジェクト担当)、池田 潔(論集編集長)、
前田啓一(国際交流担当)、松岡憲司(若手対策担当)
(九州) 川上義明

理事

(東部) 岡室博之(国際交流担当)、高橋美樹、港 徹雄、岡田浩一、駒形哲哉、
堀 潔、長山宗広、八幡一秀、安田武彦、濱田康行
(中部) 足立文彦、弘中史子
(西部) 太田一樹、村社 隆、二場邦彦
(九州) 川上義明(常任理事兼任)

幹事

(東部) 岡室博之(国際交流担当、理事兼任)、川名和美(若手対策担当)、
高石光一(プロジェクト担当)、山本篤民、和田耕治
(中部) 弘中史子(理事兼任)、渡辺俊三
(西部) 文能照之(論集編集担当)、桑野博行(国際交流担当)、関 智宏、
本多哲夫、義永忠一
(九州) 黄 完晟、大田康博、遠藤真紀

監事

(東部) 福島久一 (西部) 上野 紘

<地区部会担当者(担当校)>

東部 和田耕治(嘉悦大学)、山本篤民(日本大学)
中部 林 伸彦(愛知学院大学)
西部 関 智宏(阪南大学)
九州 笹川洋平(福岡大学)

2010 年度 新規加入会員

個人会員 (29 名)

部会	氏名	所属	紹介会員
東	佐藤浩介	日本総合研究所	文能照之、池田潔
東	佐竹恒彦	佐竹経営研究所	三井逸友、長山宗広
東	船田学	独立行政法人中小企業基盤整備機構	三井逸友、長山宗広
東	川上憲繁	川崎信用金庫	三井逸友、長山宗広
東	黒崎誠	帝京大学	関満博、山藤竜太郎
東	石橋貞人	明星大学	三井逸友、長山宗広
東	渡辺孝志	中小企業総合研究機構	弘中史子、高石光一
東	浅野敬一	東京工業高等専門学校	青山和正、高石光一
東	河藤佳彦	高崎経済大学	三井逸友、長山宗広
東	陳傑	慶應義塾大学大学院生	駒形哲哉、渡辺幸男
中	西浦尚夫	三重北勢地域地場産業振興センター	服部保孝、河崎亜洲夫
中	伊藤薫	岐阜聖徳学園大学	足立文彦、山田基成
中	長屋誠吾	岐阜県立羽島高等学校	寺岡寛、林伸彦
中	今岡悦郎	自営業	寺岡寛、林伸彦
中	玉井由樹	愛知淑徳大学	西澤昭夫、浅井敬一朗
西	木村弘	宇部工業高等専門学校	井上善海、佐竹隆幸
西	穂原寿識	甲南大学大学院生	西村順二、玄野博行
西	韓光燦	京都大学	三井逸友、長山宗広
西	溝下博	広島大学大学院生	井上善海、遠藤真紀
西	長谷川英伸	兵庫県立大学大学院生	佐竹隆幸、関智宏
西	新井義典	公益財団法人徳島経済研究所	三井逸友、久保田典男
西	中村尊裕	同志社大学大学院生	太田進一、藤川健
西	大西辰彦	京都学園大学	山口隆之、亀井克之
西	瀧澤精一	兵庫県立大学	佐竹隆幸、池田潔
西	上田澄廣	兵庫県立大学	佐竹隆幸、小寺倫明
九	デブコタ・ディパク	九州産業大学大学院生	山本久義、笹川洋平
九	任非	九州産業大学大学院生	山本久義、笹川洋平
九	林勝裕	保健医療経営大学	山本久義、笹川洋平
九	桃井謙祐	長崎大学	山口純哉、安田武彦

賛助会員 (1 社)

特定非営利活動法人ビジネス・サポート

日本中小企業学会・本部事務局

【所在地・連絡先】〒651-2197 兵庫県神戸市西区学園西町 8 丁目 2-1

兵庫県立大学経営学部 佐竹隆幸研究室気付

Phone・Fax : 078-794-5649

e-mail : jasbs@mba.u-hyogo.ac.jp

郵便振替口座 : 《口座記号番号》00130-2-149660 《加入者名》日本中小企業学会